

Readings

מלא קרנך שֶׁמֶן וְלֶךְ אֲשֶׁלְחֶךָ אֶל־יְשִׁי בֵּית־הַלְחָמִי כִּי־רָאִיתִי בְּבָנָיו לִי מְלֹךְ: Sam 16:1b

1 Sam 16:6 וַיְהִי בְּבוֹאָם וַיֵּרָא אֶת־אַלְיָאָב וַיֹּאמֶר אֵד גִּגַּד יְהוָה מְשִׁיחוֹ:

1 Sam 16:7 וַיֹּאמֶר יְהוָה אֶל־שְׁמוּאֵל אֶל־תַּבַּט אֶל־מְרֹאָהוּ וְאֶל־גְּבַהַ קוֹמְתוֹ כִּי מֵאִסְתְּיָהוּ כִּי | לֹא אֲשַׁר יֵרָאֵה הָאָדָם כִּי הָאָדָם יֵרָאֵה לְעֵינָיִם וַיְהוּה יֵרָאֵה לְלֵבָב:

1 Sam 16:10 וַיַּעֲבֵר יְשִׁי שְׁבַעַת בָּנָיו לְפָנָי שְׁמוּאֵל וַיֹּאמֶר שְׁמוּאֵל אֶל־יְשִׁי לֹא־בָחַר יְהוָה בְּאַלְהֵה:

1 Sam 16:11 וַיֹּאמֶר שְׁמוּאֵל אֶל־יְשִׁי הֲתָמוּ הַנְּעָרִים וַיֹּאמֶר עוֹד שָׂאֵר הַקְּטָן וְהִנֵּה רַעָה בְּצֹאן וַיֹּאמֶר שְׁמוּאֵל אֶל־יְשִׁי שְׁלַח וַיִּקְחֵנוּ כִּי לֹא־נִסָּב עַד־בָּאוּ פָּה:

1 Sam 16:12 וַיִּשְׁלַח וַיְבִיאֵהוּ וְהוּא אֶדְמוּנִי עַם־יִפְהָ עֵינָיִם וְטוֹב רֹאִי פ וַיֹּאמֶר יְהוָה קוּם מִשְׁחָהוּ כִּי־זֶה הוּא:

1 Sam 16:13 וַיִּקַּח שְׁמוּאֵל אֶת־קַרְן הַשֶּׁמֶן וַיִּמָּשַׁח אֹתוֹ בְּקַרְבֵּי אָחִיו וַתִּצְלַח רִוַח־יְהוָה אֶל־דָּוִד מֵהַיּוֹם הַהוּא וּמִמֶּלְכָהּ וַיִּקַּם שְׁמוּאֵל וַיֵּלֶךְ הַרְמָתָה: ס

Eph 5:8 ἦτε γὰρ ποτε σκότος, νῦν δὲ φῶς ἐν κυρίῳ· ὡς τέκνα φωτὸς περιπατεῖτε

Eph 5:9 - ὁ γὰρ καρπὸς τοῦ φωτὸς ἐν πάσῃ ἀγαθωσύνῃ καὶ δικαιοσύνῃ καὶ ἀληθείᾳ -

Eph 5:10 δοκιμάζοντες τί ἐστὶν εὐάρεστον τῷ κυρίῳ,

Eph 5:11 καὶ μὴ συγκοινωνεῖτε τοῖς ἔργοις τοῖς ἀκάρποις τοῦ σκότους, μᾶλλον δὲ καὶ ἐλέγχετε.

Eph 5:12 τὰ γὰρ κρυφῆ γινόμενα ὑπ' αὐτῶν αἰσχρόν ἐστὶν καὶ λέγειν,

Eph 5:13 τὰ δὲ πάντα ἐλεγχόμενα ὑπὸ τοῦ φωτὸς φανεροῦνται,

Eph 5:14 πᾶν γὰρ τὸ φανερούμενον φῶς ἐστίν. διὸ λέγει· ἔγειρε, ὁ καθεύδων, καὶ ἀνάστα ἐκ τῶν νεκρῶν, καὶ ἐπιφάσει σοι ὁ Χριστός.

John 9:1 Καὶ παράγων εἶδεν ἄνθρωπον τυφλὸν ἐκ γενετῆς.

John 9:6 ταῦτα εἰπὼν ἔπτυσεν χαμαὶ καὶ ἐποίησεν πηλὸν ἐκ τοῦ πτύσματος καὶ ἐπέχρισεν αὐτοῦ τὸν πηλὸν ἐπὶ τοὺς ὀφθαλμοὺς

John 9:7 καὶ εἶπεν αὐτῷ· ὕπαγε νίψαι εἰς τὴν κολυμβήθραν τοῦ Σιλωάμ (ὃ ἐρμηνεύεται ἀπεσταλμένος). ἀπήλθεν οὖν καὶ ἐνίψατο καὶ ἦλθεν βλέπων.

John 9:8 Οἱ οὖν γείτονες καὶ οἱ θεωροῦντες αὐτὸν τὸ πρότερον ὅτι προσαίτης ἦν ἔλεγον· οὐχ οὗτός ἐστιν ὁ καθήμενος καὶ προσαιτῶν;

John 9:9 ἄλλοι ἔλεγον ὅτι οὗτός ἐστιν, ἄλλοι ἔλεγον· οὐχί, ἀλλὰ ὁμοίος αὐτῷ ἐστίν. ἐκεῖνος ἔλεγεν ὅτι ἐγώ εἰμι.

John 9:13 Ἄγουσιν αὐτὸν πρὸς τοὺς Φαρισαίους τὸν ποτε τυφλόν.

John 9:14 ἦν δὲ σάββατον ἐν ἧ ἡμέρᾳ τὸν πηλὸν ἐποίησεν ὁ Ἰησοῦς καὶ ἀνέωξεν αὐτοῦ τοὺς ὀφθαλμοὺς.

John 9:15 πάλιν οὖν ἠρώτων αὐτὸν καὶ οἱ Φαρισαῖοι πῶς ἀνέβλεψεν. ὁ δὲ εἶπεν αὐτοῖς· πηλὸν ἐπέθηκέν μου ἐπὶ τοὺς ὀφθαλμοὺς καὶ ἐνιψάμην καὶ βλέπω.

John 9:16 ἔλεγον οὖν ἐκ τῶν Φαρισαίων τινές· οὐκ ἐστὶν οὗτος παρά θεοῦ ὁ ἄνθρωπος, ὅτι τὸ σάββατον οὐ τηρεῖ. ἄλλοι [δὲ] ἔλεγον· πῶς δύναται ἄνθρωπος ἁμαρτωλὸς τοιαῦτα σημεῖα ποιεῖν; καὶ σχίσμα ἦν ἐν αὐτοῖς.

John 9:17 λέγουσιν οὖν τῷ τυφλῷ πάλιν· τί σὺ λέγεις περὶ αὐτοῦ, ὅτι ἠνέωξέν σου τοὺς ὀφθαλμούς; ὁ δὲ εἶπεν ὅτι προφήτης ἐστίν.

John 9:34 ἀπεκρίθησαν καὶ εἶπαν αὐτῷ· ἐν ἁμαρτίαις σὺ ἐγεννήθης ὄλος καὶ σὺ διδάσκεις ἡμᾶς; καὶ ἐξέβαλον αὐτὸν ἔξω.

John 9:35 Ἦκουσεν Ἰησοῦς ὅτι ἐξέβαλον αὐτὸν ἔξω καὶ εὐρών αὐτὸν εἶπεν· σὺ πιστεύεις εἰς τὸν υἱὸν τοῦ ἀνθρώπου;

John 9:36 ἀπεκρίθη ἐκεῖνος καὶ εἶπεν· καὶ τίς ἐστιν, κύριε, ἵνα πιστεύσω εἰς αὐτόν;

John 9:37 εἶπεν αὐτῷ ὁ Ἰησοῦς· καὶ ἑώρακας αὐτὸν καὶ ὁ λαλῶν μετὰ σοῦ ἐκεῖνός ἐστιν.

John 9:38 ὁ δὲ ἔφη· πιστεύω, κύριε· καὶ προσεκύνησεν αὐτῷ.

## Comments

- 今日は四旬節第四主日。先週に続いて洗礼の水をイメージさせながら、シロアムの池でイエスが盲人を癒すヨハネ福音書の9章全部を福音朗読は取り上げている<sup>1</sup>。この盲人の癒やしの物語は、神殿南斜面にあったダビデの町の南端の水源であるシロアムの池が舞台である。ここで盲人がイエスにいやされて視力を回復することから物語が始まるが、イエスがつばを盲人の眼に塗ったという奇跡はごく短く冒頭に置かれているにすぎない。物語の本論は、この一件を聞いた近所の者たちとファリサイ派の反応にある。まず8節で盲人が以前物乞いをしていたのを「見ていたθεωροῦντες」近所の者たちが「見えるようになってβλέπων (7節)」帰ってきた盲人は「誰なのか」で揉めている。ここで、同じ「見る」といっても、自分の過去の経験からは話をする近所の人たちの「見る」と盲人の「見る」ga
- 、原文では異なる単語で表現されて意味の違いを示唆している。続いてこの盲人がファリサイ派のところ連れて行かれる。ファリサイ派は盲人が見えるようになったことは、働くことを禁じる安息日規定に触れているかどうかを調べるために、15節で「どうしてπῶς (直訳:どのように)」癒やしが行われたのかに焦点を当てている。続く16節でファリサイ派は行われた癒やしが安息日規定に触れていないか、イエスが人間という罪人なので盲人が見えるようにする神の業は行えるはずがないと、イエスの癒やしを既存の律法になんとか関係させて考ようとしていたことが伺える。ファリサイ派は盲人の目が見えるようになったことが神による罪のゆるしによることを認めざるを得ず、そうすると敵対視しているイエスが神であると告白せざるを得なくなる。自分が呼びつけた盲人を尋問することで、自分で自分を窮地に追い込んだファリサイ派は、盲人を外に追い出して関わり合わないことにした。それでは、イエスは盲人に何を見たのだろうか。また盲人はイエスに何を見たのだろうか。
- 第一朗読のサムエル記ではダビデが油注がれる王としてサムエルに見つけられる記事が取られている。神が選ぶ王を探すためにサムエルはベツレヘムにいたエッサイに遣わされた<sup>2</sup>。エッサイの息子たちが王の候補者としてやってくるが、「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない(7節)」と神はサムエルに戒めている。なぜなら王といえば、戦争を勝ち抜くような立派な容姿でなければならないと思っていたからだ。しかしイスラエルの神はそのような人間の目に映るような素晴らしさを退けている。なぜなら人は目で見ることに左右されるが、「主は心によって見る יְהוָה יִרְאֶה לְלִבָּב: ヴァドナイ イルエー ラルレーバーブ」からだ、神がどのように王を選ぶかを述べている。目に映る美しさによって人は悪を選んでしまい、滅びの道に至ることのないようにという戒めが思い起こされる(知13:7)。こうしてやってきた息子たちからは誰も選ばれなかったが、最後にその場になかった羊飼いの末っ子が連れてこられた。この貧しくて薄汚れている末っ子である羊飼いがダビデである。誰の目にも王にふさわしくないと映った貧相な羊飼いが呼ばれると、「これがその人だ: הוּא יְהוָה קִי-זֶ פֶר (12節)」と主は断定し、サムエルは彼に油を注いでイスラエルの王として迎えている<sup>3</sup>。
- このサムエル記の記事にあるように、人は目で見るが、主が心によって見るという違いを福音と重ねるのであれば、ファリサイ派とイエスは、同じ

<sup>1</sup> 9章全体は一つの物語で美しくまとまっているが、聖書と典礼は紙幅の関係で朗読を短くしている。

<sup>2</sup> 福音朗読での舞台がシロアム「遣わされた者」という名の池であることに注意。

<sup>3</sup> マソラ本文は12節前半に「彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった」とダビデの容姿を称えているが、見た目判断しないようにサムエルを戒め、見た目の良くない羊飼いがダビデが選ばれたにもかかわらず、ダビデの容姿を称えるこの句は文脈に明らかにそぐわない。だが、このイスラエル統一王朝を作ったダビデ王の幼年時代を称える表現の直後に文章の自然な流れを唐突に区切って読者に休止を求めるפְּ(フェー)をマソラが置いている。このפְּによる休止という沈黙が、単純にイスラエル統一王朝のダビデ王に敬意を払う意味なのか、あるいはダビデの容姿に最後は人の目が惑わされたので、イスラエル王の誤った選びがなされる瞬間を表しているのか、それが王朝が破滅と捕囚に至る原因を示唆していると受け取るのかを、この沈黙は考えさせている。

盲人を見ても見えている内容が異なっていたといえよう。ファリサイ派は律法と罪から盲人を理解しようとしたのに対して、イエスはそうではなく、盲人を別の観点から理解していた。それは、盲人に再び出会ったイエスが「あなたは人の子を信じるか(35節)」と問い、「あなたは、もうその人を見ている(37節)」と盲人に答えたことがそれを示唆している。サムエル記の表現を借りれば、イエスの新しい観点は、罪人と呼ばれていた盲人をイエスが「心によって」見たことである。また同時に、安息日を無視して律法に反する行いをする罪人とファリサイ派に考えられていたイエスを、盲人は「心によって」見ていたことも指摘したい。